



**株式会社 原田武夫国際戦略情報研究所**
IISIA Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.

**一般社団法人 日本グローバル化研究機構**
RIJAG Research Institute for Japan's Globalization

YouTube : <https://bit.ly/3B5kFtS>
Facebook : <https://www.facebook.com/iisia.jp>
Twitter : <https://twitter.com/iisia>
Instagram : https://www.instagram.com/iisia_official/

Twitter

Instagram

LINE



2022年度 社会貢献事業報告書

目次

- 1 IISIA、RIJAGの概要
- 2 代表取締役CEO・代表理事 原田武夫ご挨拶
- 3 「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」実現のための国内プロジェクト
- 4 「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」実現のための海外プロジェクト
- 5 各関係フォーラムへの出席
- 6 ゼミ生インタビュー
- 7 卒業生インタビュー
- 8 IISIAライブラリー
- 9 会員様の声
- 10 編集後記

IISIA企業概要

| | |
|--------------------|---|
| 商号 | : 株式会社原田武夫国際戦略情報研究所 Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc. (略称:IISIA) |
| 代表取締役・最高経営責任者(CEO) | : 原田武夫 |
| 設立登記 | : 2007年4月2日 |
| 事業内容 | : 国内外情勢に関する調査研究 及び教育活動並びに経営コンサルティング業 |
| 資本金 | : 3,000,000円 |
| 本社所在地 | : 〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目3番2号 郵船ビルディング 3F |
| URL | : https://haradatakeo.com/ |

RIJAG団体概要

| | |
|------|---|
| 法人名 | : 一般社団法人日本グローバル化研究機構 Research Institute for Japan's Globalization (略称:RIJAG) |
| 設立登記 | : 2011年9月29日 |
| 事業内容 | : 「グローバル社会における我が国の在り方」を研究し、 世界に向けて開かれた未来志向の提案を行っていく為のプラットフォーム創作 |
| 資本金 | : 非営利団体のためなし |
| 所在地 | : 〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目3番2号 郵船ビルディング 3F |
| URL | : https://rijag.org/jp/ |

Our Mission

Giving the People Hope and Future.

私たちは日本と世界の全ての人々に希望と未来がもたらされることを目標に活動します。あらゆる違いを越えた場づくり、輝くイノベーションをもたらす人財の育成と助言、そして情報リテラシーの研究開発と普及を行います。

IISIA  **QUADRI FOGLIO**
Giving the People Hope and Future



Our Vision

「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」

昨年(2022年)は新型コロナウイルスやウクライナ侵攻に始まり、我が国では安倍晋三元総理大臣の『遺難』、海外ではエリザベス英女王の「逝去」など、国内外情勢に揺さぶりをかけてくる一年でありました。世界史の大転換の時であり、いわば「グノーシス主義的転回」の「プレリユード」とでも言うべきタイミングの到来を受け、弊研究所が掲げるヴィジョンである「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」の実現可能性が益々高まってきております。その『プレリユード』が始まっている今だからこそ従来の「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」に関する定義を、新たなエレメント(構成要素)の基、時宜に適した形で改定いたしました。

“Pax Japonica”とは？

- 1 予見的ガバナンスの見地に立ちながら
- 2 リスクフリーな環境整備を行いつつ
- 3 Public Engagementを伴う先端技術の社会的実装を実現して
- 4 「グランド・チャレンジ」の解決をグローバル社会全体に転移させていくプロセスのこと

以上の定義に基づいて、私たちIISIAは「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」の実現に向け取り組みを加速させて参ります。

ご挨拶



2022年度は激動のグローバルにおける動きを経て弊研究所の掲げるヴィジョンである「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」の実現に大きく前進することができました。これまで閉鎖的であった国境も解かれた今、今後はグローバル社会全体における激動の動きを受け、人類共通の未来につき深い認識を持つ仲間たちの輪を広げ、一つの力となる必要があります。弊研究所はそのために、関連団体である一般社団法人日本グローバル化研究機構(RIJAG)等と共催で、国際連合で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」をも念頭に置きながら、様々な形で社会貢献事業を引き続き展開しております。

「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」が実現されるために必要なこと。それは過去に対する偏りの無い正しい認識とそこから導き出した歴史法則をベースにしながら、個別の局面で日々生じ得る困難に立ち向かうべく、未来志向のロードマップを私たち全員が創り上げる能力を磨き続けることです。そうした能力を次の時代を担う若い世代が磨く場を弊研究所は提供しております。とりわけ2022年度では、新たな試みとして所外の会議室スペースを用いながら研究員が講師を務めるといった新しいやり方で“情報リテラシー”教育を実践させて頂いた次第です。

加えて、国内外情勢が未曾有の「危機の時代」へと突入し混沌とした現代だからこそ、経済協力開発機構(OECD)でも採用されている未来シナリオの手法を用いながら先端科学技術の開発とその社会実装が益々必須となります。そのための研究活動として、2022年9月より東京大学との共同研究を開始いたしました。

また、国連経済社会理事会(ECOSOC)より協議資格である「特殊諮問資格(Special Consultative Status)」を正式に認められたことから、グローバル社会に対して我々の取り組みを発信する準備も整って参りました。

今年度(2023年度)においても社会貢献事業の活動が国内外においてこれまでになく加速し、その活動を日々皆様へ示すことで「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」の実現に向け尽力していく所存です。

株式会社原田武夫国際戦略情報研究所 代表取締役 CEO
一般社団法人日本グローバル化研究機構 代表理事

原田武夫

「Pax Japonica」実現のための国内プロジェクト

1 若手人材のための“情報リテラシー”教育

“情報リテラシー”教育とは…

OSINT (Open Source Intelligence) = 公開情報からその意味を読み取り、Scenario Planningで未来を導き出す。

この力をIISIAは“情報リテラシー”と定義をしています。この力を多くの人々に対して教え、身に付けて頂くために我々は様々な活動を行っています。IISIAの会員様には会員制サーヴィスを通じて日々情報リテラシーを高めて頂き、学生には無償で学びの場を提供しています。

東大自主ゼミ

2022年S semester 4月～6月 東京大学教養学部 自治会公認自主ゼミ(水曜4限)

第1講 イントロダクション(その1)

今、我が国と世界で何が本当に起きているのかを解説します。

第2講 イントロダクション(その2)

第1講で述べた情勢認識を前提にこれから何が必要なかを論じます。

第3講 今、私たちはどこに立っているのか(その1)

我が国社会がどのような状況に置かれ、その理由は何かを考えます。

【参考文献】 藤井義彦「巨大企業危機」(さくら舎)
村松岐夫、奥野正寛「平成バブルの研究<上>形成編 バブルの発生とその背景構造」(東洋経済新報社)
村松岐夫、奥野正寛「平成バブルの研究<下>崩壊編 崩壊後の不況と不良債権処理」(東洋経済新報社)

第4講 今、私たちはどこに立っているのか(その2)

グローバル社会がどのような状況に置かれ、その理由は何かを考えます。

【参考文献】 リサ・ランドール「ワープする宇宙」(NHK出版)
リサ・ランドール「宇宙の扉をノックする」(NHK出版)
リサ・ランドール「ダークマターと恐竜絶滅」(NHK出版)

第5講 今、私たちはどこに立っているのか(その3)

上記2講の考察を前提に国連とその向こう側に広がる未来を考えます。

【参考文献】 岩間浩「ユネスコ創設の源流を訪ねて」(学苑社)
ルドルフ・シュタイナー「人智学・心哲学・霊智学」(ちくま学芸文庫)

第6講 情報リテラシーとその周辺

今求められているスキルとしての「情報リテラシー」の俯瞰図を論じます。

【参考文献】 原田武夫「世界のエリートはなぜ、この「フレームワーク」を使うのか」(かんき出版)
木下是雄「理科系の作文技術」(中公新書)
ステイブン・トゥールミン「講論の技法 トゥールミンモデルの原点」(東京図書)

第7講 本当の過去を知る・我が国(その1)

知るべき過去として我が国の古代を巡る論を振り返ります。

【参考文献】 河内春人「倭の五王」(中公新書)
篠川賢「継体天皇」(吉川弘文館)
戸矢学「ヒルコ 棄てられた謎の神」(河出書房新社)



第8講 本当の過去を知る・我が国(その2)

知るべき過去として我が国の中世・近世を巡る論を振り返ります。

【参考文献】 今谷明「室町の王権」(中公新書)
足利健亮「中近世都市の歴史地理 町・筋・辻をめぐって」(地人書房)
藤田寛「天皇の歴史⑥ 江戸時代の天皇」(講談社)

第9講 本当の過去を知る・我が国(その3)

知るべき過去として我が国の近現代を巡る論を振り返ります。

【参考文献】 原田武夫「日本封じ込め」の時代」(PHP新書)
「GHQ日本占領史 石油産業」(日本図書センター)
エドワード・ミラー「日本経済を激減せよ」(新潮社)

第10講 本当の過去を知る・米欧総論(その1)

知るべき過去として「グノーシス主義」について論じます。

【参考文献】 大貫隆「グノーシス 陰の精神史」(岩波書店)
太田俊寛「グノーシス主義の思想 父というフィクション」(春秋社)
筒井賢治「グノーシス 古代キリスト教の異端思想」(講談社)

第11講 本当の過去を知る・米欧総論(その2)

知るべき過去として井筒俊彦の所論を振り返ります。

【参考文献】 井筒俊彦「意識と本質」(岩波文庫)
井筒俊彦「神秘哲学」(岩波文庫)
井筒俊彦「コスモスとアンチコスモス」(岩波文庫)

第12講 本当の過去を知る・米欧総論(その3)

知るべき過去としてイラン問題の本質から見える米欧について論じます。

【参考文献】 高橋和夫「イランとアメリカ」(朝日新書)
日村陽「イスラエル」(岩波新書)
安田喜憲「蛇と十字架 東西の風土と宗教」(人文書院)

IISIA東大プレップ・スクール

2022年10月～2023年1月 渋谷ヒカリエ(水曜18時)

現在まで続くIISIA/RIJAGの情報リテラシー教育の基盤を築いた「IISIAプレップ・スクール」。東京大学をはじめ国際基督教大学(ICU)、名古屋大学等、これまで全国で展開して参りました。2022年度では新たな試みとして研究員が講師を務め、外部の会議室にて各大学の学生に対して“情報リテラシー”教育を提供致しました。

第1講 “情報リテラシー”とは何か

今必要な情報リテラシーについて論じます。

第2講 “情報リテラシー”とメディア

情報リテラシーのためのメディアとの向き合い方について学びます。

【参考文献】 藤井義彦「巨大企業危機」(さくら舎)
村松岐夫、奥野正寛「平成バブルの研究<上>形成編 バブルの発生とその背景構造」(東洋経済新報社)
村松岐夫、奥野正寛「平成バブルの研究<下>崩壊編 崩壊後の不況と不良債権処理」(東洋経済新報社)

第3講 世界の基本構造と国際関係(ロシア史)

我が国とロシアとの関係について考えます。

【参考文献】 市川浩「科学の参謀本部」(北海道大学出版会)



第4講 世界の基本構造と国際関係(米国史)

我が国と米国との関係について考えます。

【参考文献】 ジョージ・フリードマン「2020-2030 アメリカ大分断—危機の地政学」(早川書房)

第5講 デジタルメディア&日本経済の現状とこれから

メディアの動向を踏まえて、日本経済の展開を論じます。

【参考文献】 盛山和夫「経済成長は不可能なのか—少子化と財政難を克服する条件」(中央公論新社)

第6講 世界の基本構造と国際関係(ロシア・米国史まとめ)

我が国とロシア・米国との関係を総括して考えます。

【参考文献】 原田武夫「仕掛け、壊し、奪い取るアメリカの論理」(ブクマン社)

第7講 日本資本主義史(円の国際史)

円の歴史を振り返り、今後の円の行方を論じます。

【参考文献】 菊池悠二「円の国際史」(有斐閣)

第8講 世界の未来と日本の可能性(その1)(日本バブル・日本デフォルト)

令和における「日本バブル」の発生原因や今後の展開の可能性を学びます。

【参考文献】 達沢明「金融バニック 国債破綻後の日本を予測」(かんき出版)

第9講 世界の未来と日本の可能性(その2)

「Pax Japonica(ボックス・ジャポニカ)」とは、そのトリガーを学びます。

【参考文献】 出口 康夫他「軍事研究を哲学する」(昭和堂)

IISIA原田武夫ゼミ

IISIAではインターン生が十数名在籍しており、各部門の業務に携わり活躍をしております。そこでは働くことの学びのみならず毎月、代表・原田武夫自身が“情報リテラシー”教育も提供しております。



「Pax Japonica」実現のための国内プロジェクト

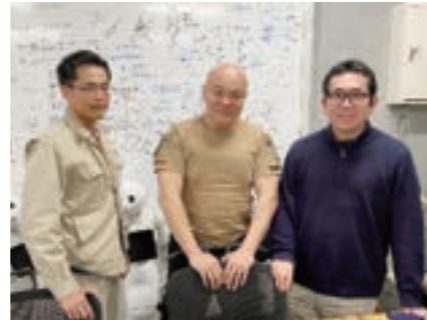
2 先端技術の社会実装

予見的ガバナンスの実現に向けた東京大学との社会連携に基づく取り組み

東京大学との社会連携講座及び共同研究実施

昨年より、弊研究所代表・原田武夫が東京大学との共同研究に加わることになりました。今後は、東京大学光吉研究室との社会連携契約に基づき、文理の垣根を超えた研究チームに参画いたします。そこでの研究では主に、ロボットやAIがもつ判断力である「人工自我」について研究している道徳感情数理工学を扱っております。「人工自我」とは、AI等がアイデンティティをもつものです。最終的には、ヒトでは解決できない、違ったアイデアを自発的に考える「人工自我」の構築を目標にしております。

URL : <http://meome.t.u-tokyo.ac.jp/>



3 「Pax Japonica」の実現のためのより深い歴史認識を得るための取り組み

「七星剣」年代確定調査

高知県四万十市に対し、歴史的価値の高い「七星剣」の年代確定調査の実施を財政的にサポートする寄付事業であり、地方創生および学術・文化振興のプロジェクトとして行っています。

「七星剣」に関して、その出自及び年代を確定することで、「小京都」としての高知県四万十市（土佐中村）の歴史・文化・宗教的繋がりの再評価を行い、同地域の観光業やその他産業の発展に繋げていくことを目的としています。

現在、刀身の形が完全に残っている「七星剣」は高知県四万十市の一宮神社を含め、四振りのみとなっています。さらに他の三振りとは違い、一宮神社の「七星剣」は両刃となっています。このことから「七星剣」の価値を調査で明らかにすることで、今までの史実に新たな視点加わる可能性を秘めたプロジェクトです。

今後のプロジェクトスケジュール（予定）

2022年度 調査委員会による調査方法検討
2023年度 年代確定調査実施
2024年度 調査結果公表、シンポジウム開催



4 ラブエフェム国際放送株式会社「原田武夫のNew Breeze」

「国際金融都市」へと福岡が変貌を遂げる為に必要な事、未来に向けた道のりを中心に弊研究所代表・原田武夫が国内外の旬なトピックを取り上げ、弊研究所所員との対話をベースに2022年1月よりお届けしています。2022年度では弊研究所所員による海外出張の様子を題材に発信いたしました。

LOVE FM 毎週火曜日 12時50分～(10分)



※スマートフォンやアプリ、パソコンでラジオの視聴が可能なサービスradiko(ラジコ)においても視聴可能。

「Pax Japonica」実現のための海外プロジェクト

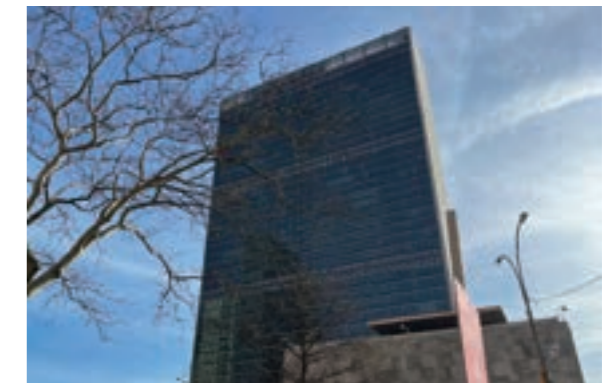
1 国際連合(UN)との協力(国連NGO)

国連NGOステータスの獲得

現代の複雑化するグローバル課題を受けて、多くの非政府組織(NGO)が国連と連携関係を結び、課題解決のため様々な活動を行っています。

この度、国連経済社会理事会(ECOSOC)より、姉妹団体である一般社団法人日本グローバル化研究機構(RIJAG)に対し、正式に「国連NGOステータス=Consultative Status」が与えられました。

特殊諮問資格(Special Consultative Status)を得ることで、国連機関が開催する会議や政府間機関が招集する国際会議への参加が可能となります。さらには書面又は口頭にて意見を述べることもでき、この資格を活用し、今後はグローバル社会における意思決定に積極的に関与し、今後は国連NGOの一員として、グローバル社会の意思決定に積極的に参画して参ります。



国連NGOステータスを用いた出席

2023年2月、「科学的エヴィデンスに基づいた持続的な解決を図る国連総会のブリーフィング」に出席いたしました。本ブリーフィングは国連総会により開催され、高度な学識者や科学者ら専門家も招致されていました。

本会合では、直近の「UN 2023 Water Conference」にむけ科学的見地を交えて相互的に議論することを目的とされました。水経済、気候変動、平和協力、それからパンデミックに対する対策について各セクションでの議論に参加いたしました。

2 海外有名大学との情報リテラシー教育のための協力

海外の名門大学との協力協定

弊研究所は将来的な国連NGOステータス獲得を目指していたこともあり、その一環として2019年6月にロシア・サンクトペテルスブルグ国立経済大学(UNECON)と協定を締結しました。

協定締結後、オンライン講座及びワークショップを実施し、同年8月にはUNECONの学部生2名を弊研究所に招へいしました。約1か月間のインターンシップを開催し、UNECON側から同プログラムに対して高い評価を得ました。

2020年度及び2021年度はCOVID-19の影響により、インターンシップ不開催となりましたが、今後も両大学との間のインターンシップ・プログラムを継続・発展させていく所存です。

提携校

ロシア・サンクトペテルスブルク国立経済大学 (Saint-Petersburg State University of Economics:UNECON)

ロシア・サンクトペテルスブルクにある公立の大学。モスクワ大学と並ぶロシアの名門大学であり、帝政ロシア時代よりロシアの教育・文化面で多大な役割を果たしてきました。

グローバル社会に向けた発信として各関係フォーラムへの参加

米ペンシルヴァニア大学のローダー研究所が主催しているプロジェクトの一つに、「世界で注目すべきシンクタンク(Think Tank to Watch)」のランキングづくりがあります。その2019年度版においてIISIAが同ランキングの「注目すべきシンクタンク」カテゴリの31位にランクインいたしました。

このカテゴリでランクインされるのは我が国ではIISIAのみです。今後とも、海外の大学およびシンクタンクとの連携の上、国際会議においても発言機会を拡大しています。

“Council for Inclusive Capitalism with the Vatican”の詳細



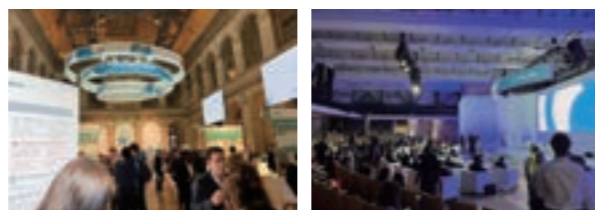
ローマ法王フランシスコの倫理的助言を受けてヴァチカンの支援で2020年12月に設立された国際協議体であり、「Guardians for Inclusive Capitalism」として知られる世界の最高経営責任者(CEO)らと、毎年ヴァチカンで会合を開いております。メンバーの中には、米銀行大手バンクオブアメリカ、英石油大手BP、米ジョンソン・エンド・ジョンソン、米フォード財団、米ロックフェラー財団などが加盟しています。

公式HP : <https://www.inclusivecapitalism.com/>
加盟メンバー掲載ページ : <https://www.inclusivecapitalism.com/member/takeo-harada/>

パリ平和フォーラム

パリ平和フォーラム2022「多重危機を乗り越える」

グローバル課題に立ち向かい、恒久的な平和を確保するには国際協力が不可欠であるという考えに基づいたパリ平和フォーラムは毎年、各国首脳、国際機関、地方自治体、非政府組織(NGO)、財団、企業、メディア、労働組合、宗教団体、市民団体など、グローバル・ガバナンスのあらゆるアクターを一堂に集めて、相互作用を生み出すことを目的として開催されています。

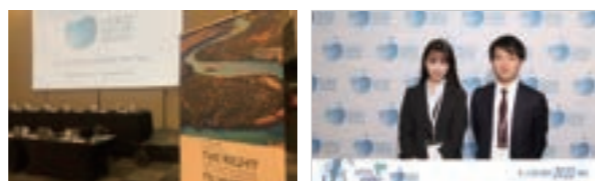


2022年に参加いたしました第5回パリ平和フォーラムは「多重危機を乗り越える」というテーマの下、国家間協力を妨げる世界の分極化の防止を謳い、会場に集まった専門家による講演が11月11日と12日の2日間にわたり開催されました。

講演会場の外では、各団体がそれぞれのプロジェクトを発表するブースが設けられており、IISIAもブース出展に向けて準備しております。

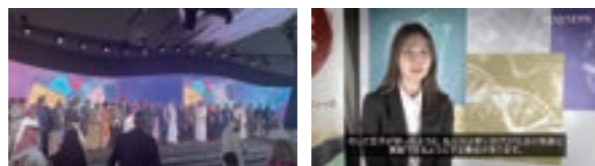
世界水会議(World Water Council)への加盟更新

世界水会議とは、世界で深刻化している水問題の解決に向けて1996年に設立された国際NGO組織です。私たちが生きていくうえで水資源はとても大切です。弊研究所は、社会貢献事業やグローバル社会への貢献の一環として、世界水会議へ加盟しています。また2022年度では引き続き加盟更新を行い、パリにて、世界水会議の第9回総会に参加いたしました。とりわけ我が国は水資源が豊富であるうえ、水インフラ等の設備が整っているため、様々な国から注目されていることを実感いたしました。



未来の教育・科学・文化国際機関フォーラム(FESCIOF)

未来の教育・科学・文化国際機関フォーラム(FESCIOF)が、サウジアラビアの首都リヤドで開催され、IISIAは初めて参加いたしました。アラブ連盟教育・文化・科学機関(ALECSO)、イスラム世界教育科学文化機関(ICESCO)、国連教育科学文化機関(UNESCO)のほか、100以上の国際組織が参加し、教育、科学、文化の分野における国際組織の未来において影響を与える会合でした。



今後ともアラブ地域における教育や科学技術の促進にIISIAとしても貢献して参ります。

ゼミ生インタビュー



鈴木 朝香

東京大学大学院 修士課程
学際情報学府 学際情報学科

将来の希望職業

リサーチャー

参加に至った背景

インターン生としてIISIAで働かせて頂く中で、プレップ・スクールが開講されることを伺いました。自分もIISIAで展開されているような分析をできる力をつけたいと考えていた為、「IISIA東大プレップ・スクール」でその一部を学べたらと参加しました。

プレップを通して学んだこと

私は現在、大学院の修士課程に在籍していますが、学問ではどうしてもエビデンスが明確なものに論拠が制限されます。また、各学部の作法に則った研究が求められるため、ある意味で視点が固定化されているように感じていました。もちろん、物事を特定の側面から観察するスキルも大事ですが、私はここで、さらに多角的なものの見方や考え方を学べました。同時に“情報リテラシー”の不足も痛感させられ、継続的な学びの必要性を感じました。

プレップでの学びを今後どのように活かしていきたいか

研究職を志す私にとって、プレップでの学びは、直接的に目標に生きてきます。いずれはアカデミズムの御作法に沿った分析方法も、プレップで学んだより複合的な視点をもったものも、両方を使い分けられるリサーチャーになりたいです。

また、ここで学んだ“情報リテラシー”の必要性や分析の着眼点を、家族や友人など身近な人に伝えていこうと思います。ひとりでも多くの人に、“情報リテラシー”の習得を進めることで、僅かでも社会に良いインパクトを生み出していきたいです。



神野 和磨

東京大学
理学部 生物化学科

将来の希望職業

エンジニア/データ分析

参加に至った背景

私がこのゼミに出会ったのは、大学2年生になり新学期が始まった春のことでした。いろいろな自主ゼミがある中で、世界情勢について理解を深めたい、そしてニュースを正しく読めるようになりたいという理由から、原田ゼミへの参加を決めました。

ゼミを通して学んだこと

このゼミを通して、ニュースが報道される際には、何をどう報じるかというメディアの「意図」や、世界情勢に影響を与えるような出来事起こした各国勢力の「意図」がしばしば存在するということを学びました。そして、少しずつではありますが、毎週の公開報道分析の発表を繰り返す中で、そのような「意図」に目を向ける姿勢が身に付いていったと思います。また、課題図書として提示頂いた多くの本を通して、教養が深まりました。

ゼミでの学びを今後どのように活かしていきたいか

当初の「世界情勢について理解を深める」という目標にはまだまだ道半ばで、引き続き日々のニュースにキャッチアップし、勉強をつづけていく必要があります。また、私は原田代表をはじめとするIISIAの연구원の方々に講義をしていただく中で、自らが同時代に生きる一人の人間として、責任と使命感を持って世界に貢献したいという思いを抱くようになりました。このように大きな志を持ってたことは、自分にとって一番の実りであり、このゼミに参加させていただいたことに本当に感謝しています。IISIA所員の皆様、ありがとうございます。

卒業生インタビュー



高橋 祥実

経歴

今は金融機関で働いており、シンガポールで裕福層向けビジネス、すなわちウェルスマネジメントに従事しています。

弊研究所・原田武夫とのエピソード(ゼミなど)

当時はまだ「IISIAプレップ・スクール」が始まっておらず、その前身となる「学生寺子屋」に参加していました。「学生寺子屋」は東京大学とICUで開催されていて、2007年にICUで開催された「学生寺子屋」が初めての参加となりました。学部在学中は、開発学を学んでおり、学校の授業での学びや新聞・テレビなどから得られる情報が表層的なのか、もやもやしていた記憶があります。特にその中で自分にできることは何だろうと考えていたと記憶しております。丁度その頃に、同じような問題意識を持った友達からこの「学生寺子屋」に誘われて、面白そうと思ったため参加しました。

「学生寺子屋」の中では原田先生がメディアの報道がいかに操作されているのかという話をして頂き印象的でありました。メディアを見る際は株主、広告代理店、テレビ局、さらには海外の金融機関までも入ることあるから、情報に偏りがあるのことは仕方ないことでもあると話していたのを覚えています。当時はどのように分析したらよいのかを教えてください大変貴重な講義でした。

また、原田先生の人柄も含めてとても面倒見が良く私たち若者の勉強に熱心に付き合ってください、その姿勢をととても尊敬しております。

思い出の学び

先生は基本的には優しいのですが、指導中は厳しい一面もありました。特に、本人にとって必要なことや言うべきことをきっちり伝えて頂いていた印象があります。

私の場合は、キャリアで悩んでいた時に、「君には義憤がないよね」という言葉を頂き今でも鮮明に覚えています。当時の私は、自分のキャリアはどうしていくかという問いに対して、自分を中心に捉えており、自分のことばかり考えていました。そこに鞭を飛ばすかのようにその一言をいただき、世の中の不条理に対する怒りはなくなってしまったの?というように言われた気がして、はっとさせられたのを今でも覚えています。

情報リテラシーについての考え

メディアの報道について、「なぜこのタイミングなのか」など思うことはあります。しかし、こうした感覚に答える「情報リテラシー」が全ての人にとって幸せであると言われると懐疑的です。なぜならばそれは逐一公開報道に対して思考を要す作業でもあるからです。それでも、「真実を知りたい、本質に触れたい」と思う人には「情報リテラシー」は重要であると考えます。

メッセージ

海外勤務を経験している私からは語学の勉強をお勧めします。なぜならば、色々な情報ソースに触れる際や、直接現地の人とコミュニケーションを行う際も、いずれにせよ通訳や翻訳ツールよりも自身の言葉を使うことが有益であるからです。

英語に限定しなくとも自身が興味のある言語でよいと思います。他の人が簡単に触れられない情報を得られるからこそ希少性が高い情報を得られます。プレップ・スクールでは日本語だけでなく、英語の論文も読むと聞いていますから、語学の勉強という点においても勉強になるかなと思います。



藤井 理緒

経歴

お茶の水女子大学に在学中、当時の「IISIAプレップ・スクール」に参加させていただきました。大学3年次にアメリカ留学のため1年間休学して、その留学経験を活かしたいと考えていた矢先に原田先生の記事を見つけて応募したのが先生との出会いです。その後、卒業してからはグローバルで事業を展開している組織へ就職しました。

弊研究所・原田武夫とのエピソード(ゼミなど)

進路に対してアドバイスをいただいたことがとても印象に残っております。プレップ・スクールでは講義の中で課題図書を多く提示頂き、先生の幅広い領域への見識に大変驚きました。

また、当時インターンもさせて頂き、先生が行っている研究のお手伝いを行いました。国立国会図書館に本を借りに行く作業がありましたが、歴史資料を読まれているのを見て、とても驚いたのを覚えています。歴史書以外にもデジタルの分野や最先端の人工知能(AI)についても研究されており、先生の学びの広さ、深さ、発信の姿勢がとても印象的でした。

思い出の学び

先生の講義で印象に残っている議論は、「人類の階層」の話と「西と東の関係性」の話です。人類の階層の話では、王族の存在など今まで意識しなかった世界の読み解き方を教わった気がしました。そうした階層に基づいて、社会、世界史、経済が動いてきたというのは私にとって新しい視点でした。

西と東の関係性については、東から西に動いているという話が新鮮な発見でした。西がすべて東から資本経済を奪うという話はとても衝撃的で、とても説得力のある議論でした。

いずれの議論も、一般的な教科書や大学で学ぶこととは異として、とても重要な視点を原田先生に教えて頂きました。

情報リテラシーについての考え

リテラシーの動詞が“literate”すなわち、「読み書き」であるように、表層の情報を選択するのではなく、自分自身で知能を使うことで分析し、そこからアウトプットするという手法を学びました。

メッセージ

会員の皆様の会費を使って社会貢献を行っているということもあり、会員の皆様に対しては、感謝の意を伝えたいと思っています。

私だけではなく、多くの学生が原田先生の講義を受け、それぞれの進路に進んでおります。この“情報リテラシー”教育は普段の大学などでの学びや情報では気づかない視点であると思います。そんな機会を大学在学時に得られたということは大変貴重なと感じているため、本当に感謝しかありません。

一方で、その視点を取得する難しさから私の代では途中で諦めてしまう学生もいました。それでもわからないと言って諦めるのではなく、参加し続けること、考え続けることをやめないでほしいと思っています。それは社会人になってからまた気づくことが絶対に1つはあるからです。その時を信じて、この機会を手にした人は頑張してほしいと思います。

IISIAライブラリー

IISIA LIBRARYとは?

会員制サービス「原田武夫ゲメインシャフト」の会員様限定でご利用いただける閉架式の図書館です。日本初の情報リテラシー専門図書館として、情報リテラシーを磨くための図書を多数所蔵しております。

WEBサイト : <http://library.haradatakeo.com/>



Stufenとは?

会員様限定でご利用頂けるサロンであり、価値観を共有する会員様に「学び」と「繋がり」をご提供する“リアルな空間”です。Pax Japonicaの想いの下に集った「価値観を共有するメンバー」が、互いに協力し、知性を磨き、交流して“つながる”ことで、「新たな価値」と「真の生きがい」を想像する場です。

ご予約方法

事前予約制です。1営業日前までに公式サイト「IISIA LIBRARY」の「来館予約・お問い合わせ」からご予約ください。

開館時間

平日8:30~16:30(事前予約制)

図書の検索方法(LibFinder)

- 公式サイトの右上にある「図書検索はこちら」のボタンをクリックすると、図書検索システム「LibFinder」に進みます。LibFinderでは、弊研究所に所蔵されている図書約2,400冊のタイトルをご覧頂けます。
- 当図書館は会員制サービスの会員様限定でご利用頂いております。LibFinderのURLを会員様以外に共有することはお控えください。
- LibFinderでは、ご希望の図書のタイトルを入力して検索して頂ける他、キーワードを入力することで関連図書を検索して頂くことも可能です。
- LibFinderはStufenの外であっても、会員様であればいつでもご利用頂けます。

ご利用方法

- 「LibFinder」でお求めの書籍が弊研究所にあることをご確認頂いた上で、Stufenにて担当所員にご希望の図書情報をお伝えください。担当が図書をお持ちいたします。
- Stufenでは図書を直接手に取ってお選び頂くことはできず、「LibFinder」で検索して頂いた図書のタイトルをお申し出いただき担当がお待ちいたします。
- 図書はStufenのスペース内にてのみご利用可能です。スペース外への図書の持ち出しは出来かねます。
- Stufenでは、ニオイ等が強いものでスペースを汚しにくい軽食に限り、飲食可能でございます。

入退館方法

入館時

- 郵船ビルディング1階の受付にて、株式会社原田武夫国際戦略情報研究所に訪問の旨をお伝えください。受付をし、来館票および来館者バッジをご受領下さい。
- 来館票および来館者バッジはお帰りになる際にも提示が求められます。紛失しないようご注意ください。
- エレベータより3FのIISIAオフィスにお越しください。
- オフィス入り口に設置しております受付電話にて、IISIAライブラリーの利用を希望する旨をお伝えください。担当者がご案内いたします。

退館時

- 3Fライブラリーからの退館時には、担当者をお呼びください。
- 担当者よりサイン済みの来館票を受け取り、セキュリティカードをお返しください。
- エレベータにて1Fに降りていただき、1F受付で来館票および来館者バッジをご返却ください。

会員様の声

S・K様(広島県・ゴールド会員)

入会のきっかけ

社会が混沌としている中、何をすればよいか不安に感じておりました。IISIAは未来シナリオを描いており、なかなか他企業にはない特徴があるのではないかと思います。「未来がわかる」ため、すなわち生きるための羅針盤を得るために入会を決意致しました。

会員をご継続頂いての感想

当初はスタートアップ会員として入会を致しました。それから更に情報の解析度を高めたいと思い、ゴールド会員にランクアップ致しましたが、情報の「質」が明らかに異なり、点と点が線でつながっていることが実感できました。IISIAで得る情報は他社とは「質」が異なり、皆様にもおすすめできるサービスです。

IISIAの社会貢献事業についてのお考え

IISIAの社会貢献に賛同しております。「IISIA東大プレップ・スクール」の様子をSNSなどで拝見しておりますが、東京大学の学生のみならず他大学の学生にも“情報リテラシー”教育を展開していると伺っております。これからは是非、より幅広い若者に対して“情報リテラシー教育”の裾野を広げて頂ければと思います。そのための支援をこれからも行っていきたいと思っております。

未来を担う若者へのメッセージ

原田代表の言葉で「0から1をつくる人になるべき」という言葉をよく耳にします。ご存じの通り、益々複雑化する国際情勢の中で様々な課題が今の社会にはあります。そのような現代だからこそ、IISIAとの繋がりの中で「思考する若者」へ育て頂ければと思います。まだまだ私自身も日々勉強しておりますが、会員の一人としてお互いに研鑽できたらと思います。期待しております。

I・M様(富山県・ゴールド会員)

入会のきっかけ

2008年頃、東アジアの情勢に興味があり、原田代表の無料セミナーへの参加がきっかけで、無料会員になり予測分析シナリオ等を購入しておりましたが、2020年の東京オリンピックの予想が的確だったことから有料会員になりました。

会員をご継続頂いての感想

今までの自分の認識を進化、強化できることや、全く違う視点からの分析によって、視座や戦略を大きく広く長い時間軸で考えられることから、小さな会社でありながらも社外取締役、相談役をお願いしているイメージで継続しております。

IISIAの社会貢献事業についてのお考え

社会の在り方は、希望がなければ未来には繋がっていかないのではと思います。今の社会で希望を作り出すということはとても大変なことです。IISIAの社会貢献事業は、情報、文化、技術、そして最も重要な教育といった幅広い分野で総合的に活動されておりますのでとても共感できます。私の子供もIISIAでインターンをさせていただいておりますが、社会に子供を育てていただくことは大変ありがたくとても感謝しております。今後も微力ながら応援をさせていただきたいと思っております。

未来を担う若者へのメッセージ

我と個性は似て非なるものです。我は人に迷惑をかけることが多いですが、個性は人を楽しませるものです。個性はSENSE(感性、美意識)です。先輩方が放つ有形、無形の美意識に触れながら、自身の中に沢山のSENSEを育て、クリエイティブが重要になる時代の中で、自分たちの思う希望のある理想の社会を追い求めていただきたいと思います。

ご支援のお願い、編集後記

ご支援のお願い

弊研究所の社会貢献事業は、会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」の会費から生じる利益の50%を用いて行っております。会員になって頂くことで、社会貢献活動に参画頂くことが可能です。

また、IISIA/RIJAGが実施しております社会貢献事業にご賛同いただき、個別のご支援(ご寄付)をご検討頂けます場合、お名前、ご所属、ご連絡先、ご寄付額を記載の上、下記アドレスまでご連絡くださいますようお願い申し上げます。

コーポレート・プランニング・グループ Eメール : cpg@haradatakeo.com

編集後記

今年度を締めくくる形で、当報告書を発行するにあたり会員様、東大ゼミ生、卒業生、所員及び様々な方々からのご協力を賜りました。昨年度(2022年度)は主に国内における活動が中心ではありましたが、閉鎖されていた国境も解放され、11月からはパリやニューヨーク、さらには中東地域への出張も経験させて頂きました。

出張先では国連や国際機関の方々とお会いしお話す度に、弊研究所の取り組みに対して賞賛の声を頂きました。IISIAの社会貢献事業がグローバルにおいて真に求められ、期待を寄せられているものであることを改めて実感いたしました。

2023年度は更なる活動の幅を広げ、一人でも多くの方に共感頂き、協力頂けると幸いです。「Pax Japonica(パックス・ジャポニカ)」の実現に向けて課題や学ぶべきことも多くありますが、様々な人や価値観と出会う中で、幅広い視野を持ち、学び合い、より良い世界を共に創っていききたいという強い気持ちで、これからも誠心誠意努めさせて頂きたく存じます。

末筆ではございますが、当報告書を発行するにあたりご支援・ご協力頂いた皆様に深く感謝いたします。誠にありがとうございました。

今後とも弊研究所の社会貢献事業へご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

| | |
|--------------------|--|
| 2022年度 社会貢献事業報告書 | 編集担当一同 |
| コーポレート・プランニング・グループ | 岩崎 州吾 グループ長 中野 陽子 |
| 2022年度 インターン生 | 片野 里菜 (日本語版) 春原 佑香 (日本語版) 牧 瑚雪 (日本語版) 山田 歩美 (英語版) |

